

# 特別支援教育コーディネーターの実践～成果と課題

横須賀市立池上中学校  
野見山 光

キーワード：特別支援教育コーディネーター、個を見つめる、学校の構造化と規則性、チームワークと役割分担

## 1. リソースルーム（特別支援教室）成立までの経過

### はじめに

池上中学校は学校を建て直すための手段として、生徒の反社会的な行動を見逃さない、また反社会的な行動をさせない事を目的に、数々の取り組みを行ってきた。特に「校舎内に生徒だけで活動する時間をつくらない。」「生徒がいる場所には必ず教師がいる。」という事を常に心掛け、ちょっとした変化や動きを見逃さないようにしている。当初は、反社会的な行動をさせない事を目的としていたが、学校が落ち着いた現在となっても取り組みは変わっていない。今ではその取り組みが、一人一人の微妙な心の変化を見逃さない個別支援の1つとして、本校の生活指導の重要な柱となっている。

### 「朝の挨拶運動」

朝の全体打ち合わせは金曜日の週1回。運営委員会（校長、教頭、学年主任、教務主任、リソースルーム担当教師1名）を校長室で行い、その他の教師は自分の学年の昇降口に立ち（生徒の登校時間は8：10～20の10分間）生徒を迎え入れる。学級委員と生徒会は「おはようございます」と登校してくる生徒に呼びかけ、登校の時間を過ごす。

登校後生徒が朝読書（8：25～35）をしている間に、各学年の控え室で学年毎に朝の打ち合わせを行い、そこで運営委員会で話し合われた内容を学年主任が伝える。

### 「授業」

週1回の校内研修日を設定し、全員が年間最低1回の研究授業を行う。去年は学力向上フロンティアスクールの研究発表会を行った。今年度は、「個を理解し、個にせまり、個を生かす～共に学び合える学習集団育成のための学習指導の研究～（グループ学習の指導法の研究）」の研究テーマのもと授業研究に励んでいる。生徒一人一人の変化をカルテに取り課題設定を工夫したり、グループ学習の効果に着目し各授業に取り入れて、授業の充実をはかっている。

### 「授業の様子の記入」

各学年の控え室に授業の様子を記入するファイルを置き、授業を終えた教師はクラスの様子を記入する。内容を見て、場合によっては個別に生徒と話したり指導したりする。

### 「昼休み」

生徒はみんな楽しく時間を過ごす。グラウンドでサッカーやバスケットボールをしたり、教室で次の日の予定をHRノートに書いたりしている。教師は各学年のフロアーや控え室にいて、生徒と一緒に昼休みを過ごす。

### 「全員清掃」

清掃は全員で行う。校内はいつも整理されており、廊下はいつ見てもピカピカだ。上級生になるほ

どつらい仕事を進んで行き、下級生の手本となっている。教師も全員清掃につき一緒に活動する。

## 2. リソースルーム（特別支援クラス）の学習

### （1）リソースに入るまで

学校内では個別で学習する教室（リソースルーム）として保護者生徒に知らせているが、特殊学級としてできた教室だ。特殊学級担当として配属された教師が中心に授業を行っている。リソースルームに入るまでの流れとしては、あくまでも本人と保護者の要望を受けて決める事であり、こちらから入るように勧める事はない。

### （2）リソースルーム（RR）での生活

生活のほとんどは通常級にあり、リソースルームで学習する以外は通常級で学習や生活をする。個別指導計画（IEP）を基に時間割をつくり、必要な時間だけリソースルームで学習する。

#### ①一日の動き

|                  |                           |                                                                 |
|------------------|---------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 8：10<br>～20      | 登校通常級へ荷物を置く。              | 生徒によってはリソースルームで着替える者もいるが通常級で着替えをし、リソースルームへ行く。                   |
| 25<br>～35<br>～45 | RR朝のHR<br>通常級朝のHR         | 全体で一日の流れを確認した後、一人一人のその日の予定を確認する。                                |
| 8：50<br>～        | 午前授業                      | 一人一人の時間割計画通り学習をする。<br>ST（サポートティーチャー）とリソースルーム担当教師で生徒の学習を指導・支援する。 |
| 12：40            |                           |                                                                 |
| 12：45<br>～       | 昼食                        | 通常級で昼食                                                          |
| 13：00<br>～       | 昼休み                       | 通常級の友達と遊んだり、RRで卓球をしている。                                         |
| 13：30<br>～       | 午後授業                      |                                                                 |
| 15：20<br>～       | 清掃<br>通常級SHR下校<br>RR帰りSHR | 1日の反省と次の日の確認                                                    |

#### ②学習内容

RRでの学習に興味がある生徒には「試行期間」を設け、ある一定の期間学習を行いRRがどんな所なのかを理解してもらう。



RR通級の意志が決定した生徒について、アセスメント表を作成する。

通常級での授業の様子観察と本人保護者との面接、RR試行期間での生徒の様子を観察し、IEPを作成する。学習内容は生徒によって様々である。生徒と保護者との要望を受けて内容を決める。



IEP会議（本人、保護者、RR担任、通常級担任、管理職、養護教諭、コーディネーター）を行い、学習内容を決めていく。



リソースルーム学習スタート



学習を行った結果、I E Pが本人の課題や希望に合っていない場合は、見直しをする。

心理的な面でサポートが必要な場合は、スクールカウンセラーに相談をする。

〈学習内容（例）〉国、数は、小学校中学年（3～4年）程度の内容を本人のつまづいている課題に応じて学習している。

### ③保護者との連絡

「連絡帳」

連絡帳で学校の様子を知らせている。連絡帳は、いつでも通常級担任や他の教師が見る事ができるようにしてある。

「リソースだより」

定期的に「リソースだより」を発行し、保護者や先生方に日常や行事での生徒の様子を知らせている。

「三者面談」

長期休業前には、通常級の担任と時間を合わせて、三者面談を行っている。

## （３）成果と課題

### ①生徒の変化

#### ・心理的变化

生徒の学習支援のみならず、心理的サポートの場として機能しているようだ。生徒が自分の居場所が見つかった事で、保健室への来室が減り、欠席もなくなった。保護者からも「家庭でも落ち着いた様子になり、以前は学校の話をしたがらなかったが、リソースルームに通うようになってから、学校の話をよくするようになった。」という話を聞き、リソースルームが生徒にとって安心できる場所として効果的である事を感じる。

#### ・学習意欲の向上

自分の課題に合った学習ができるので、今まで理解できなかった事が分かるようになったり、テストで点がとれるようになるので学習が楽しくなり、学習意欲の向上が見られる。

#### ・役割と責任

通常級ではリーダー的な仕事を行う機会が少ない生徒も、リソースでは社会性を高める目的として、責任ある立場で仕事を行う学習がある。一人一人の目的と計画を基に役割を果たす事で自信がつく。

### ②課題

#### ・生徒の変化に応じた指導の工夫

生徒が抱えている問題は様々で、少しの環境変化に対して敏感な生徒はそれだけで学習ができなくなったりする場面がある。生徒の性質を観察し、集中できる環境を工夫していく事の大切さを感じる。

#### ・学習定着の工夫

同じ課題を学習していても、理解の仕方が違ったり、指導の受け取り方が違うので一人一人の苦手な課題を克服していくための、教材教具の工夫や、指導の仕方、言葉かけの方法などを、生徒の様子を考慮しながら行っていく事が課題である。

#### ・保護者への心理的サポート

定期的に保護者への心理的サポートを今後も続けていきたいと思う。

#### ・将来に向けて

生徒が将来自立していく上で、中学校の時期に何を一番大切にしていく事が良いのかを専門

的知識を持っている方々に指導をいただきながら、具体的に行っていく事が大事だと思う。

### 3. コーディネーターの役割

#### (1) コーディネーターの仕事

##### ①特別支援教育プロジェクトチームをつくる。

- ・コーディネーターを複数つくり、仕事を分担する。

##### プロジェクトチーム

|                                            |                                                                   |
|--------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| ・教育相談コーディネーター<br>(特別支援教育コーディネーター)          | … 保護者・生徒相談、アセスメント作成、手続き説明、<br>外部との連絡、リソース委員担当、<br>プロジェクトチームのまとめ役  |
| ・研修コーディネーター                                | … 研修の企画、日程調整                                                      |
| ・スクールカウンセラー                                | … 保護者・生徒相談、指導助言                                                   |
| ・相談コーディネーター                                | … カウンセリング、教育相談受付、日程調整                                             |
| ・リソースルームコーディネーター                           | … I E P作成、I E P会議<br>リソースルーム生徒指導・学習指導・支援<br>サポートティーチャー（S T）との連絡調整 |
| *サポートティーチャー：R Rに通常級の教師が授業のサポートに入る。7名で11時間。 |                                                                   |
| ・不登校支援コーディネーター                             | … 不登校の実態把握                                                        |

- ・スクールカウンセラーの来校する日に必要に応じて会議を行う。
- ・S Tとの打ち合わせをリソースルームコーディネーターを中心に定期的に行う。

##### ②校内委員会（リソース委員会）

学年主任・管理職・特別支援教育コーディネーター・養護教諭・R R担任・月1回の定例会を行う。

- ・委員会の中心となり会議を進める。
- ・次の内容を話し合う。

「先月の活動内容」「活動総括」

「リソースルームの様子報告」「支援が必要と思われる生徒についての情報交換」

「来月の予定」「その他支援をする上で必要な事はないかの確認」

##### ③職員会議への提案

- ・職員会議に「リソース委員会より」のコーナーをつくってもらい、話し合った内容を会議で報告する。

##### ④地域リソースとの連携

- ・神奈川県立武山養護学校「学校心理士」の方に協力をお願いし、定期的に学校を訪問してもらっているのを、今後も助言をいただきながら指導に生かしていく。
- ・教育委員会や児童相談所、横須賀市特別支援チームと連絡を取りながら協力をお願いする。
- ・出身幼稚園、保育園、小学校との連携。

#### (2) コーディネーターの役割

本校の「特別支援教育」は、問題を抱えている生徒が、「充実した学校生活を送るために良い方法はないか」を探り、「どうすれば生徒、保護者の希望に応えられるか」を考え、先生方の手づくりあげられたものである。本校が今まで、個性を見抜き、個を尊重していこうとする取り組みがあったからこそ、できあがったものだと思っている。はじめに「特別支援教育」があるのではなく、一番に「生徒」があり、学校や社会の中でうまく適応できない生徒に対し、「どういう手立てを工夫すればその中で活動をしていけるのか」を考えていった結果が、「リソースルーム」であった。その中でコーディネーターが行った事は、何気なく語られている先生方の「つぶやき」や「会話」に耳を傾け、その要望に応えられる方法を探り、必要な情報を提供しようと活動した事が中心だ。今後も生徒や保護者の息づかいが聞こえる関係を大事にし、先生方との会話を大切にしていきながら、少しでも多くの生徒が過ごしやすい環境をつくるための方法を探していきたいと思っている。